

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 388 号	氏名	松本 牧子
学位審査委員	主 査	森内 浩幸	
	副 査	平野 明喜	
	副 査	高橋 晴雄	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、角膜移植においてレシピエントの安全を確保する上で最も重要な因子の一つである細菌感染のリスクを評価したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 より早く培養結果が得られる結膜嚢スワブの培養の結果と、角膜移植術の際に提出される強角膜片と保存液の培養の結果とを比較するようにデザインし、更に死後-献眼時間やドナー側の要因が細菌検出率に及ぼす影響も合わせて解析したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、ゲンタマイシン洗浄によって有意に細菌検出率が減少すること、死後-献眼時間が長いほど細菌検出率が上がること、ドナーが若年で悪性腫瘍のために死亡された場合に細菌検出率が上がることを明らかにした。さらに、強角膜片からの細菌検出率がより低い中で、検出された菌は結膜嚢の培養で検出されたものと同一であることを示した。これらの成果によって、今後の角膜移植研究への進展が大いに期待され、特に献眼者の増加を促すポータブル電動トレパンによる強角膜片摘出法の普及に貢献することが予想される。</p> <p>以上のように本論文は角膜移植研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医）の学位に値するものと判断した。</p>			